

の大きな祭りになっている。私は生徒達を見るといつもかわいそうに気がした。それは国語、数学や英語の勉強は一人、二人でもできないことはないが、体育、音楽や部活動のようなチームワークが必要とされるような授業を経験することができないからだ。

来年、とうとう中学校入学生が一人となるため山の向こうの地区と合併案が出されている。もちろん地区のお年寄り達は反対である。子供達の声が聞こえなくなるのは淋し過ぎると言っている。昔は山の仕事がたくさんあって賑やかだったこの地区が今は高齢化と人口減少で閑散としている。都市集中現象による過疎化問題は日本の多くの地域がかかっている。伝統のあるこんなに美しい国なのだからそれぞれの特色を生かして住み良いふるさと作りに努力して欲しい。

しかし、一人の中学生のために学校を残すべきであるかどうかは私には解らない。でも、小那比に行き心優しい、素朴な13人の中学生達に会うと、手動式のドアの前で立ち尽くす自分の姿を思い出し恥ずかしくなる。

○月〇日
日本の教壇に立つようになり、日本の植民地時代日本から韓国(朝鮮)へ渡り、教壇に立った日本人教師達について興味を持つようになった。もちろん、植民地政策の一つとして韓国語や文化の抹消運動が施行されていたわけだから、韓国の地元の人々や生徒達との交流は規制があり困難だったであろうと思う。しかし何十年も続いた植民地時代に日本人の先生達と韓国人の生徒達ときと何らかの交流があったのではないだろうか。私はぜひその時代の先生達を探し、直接お話を聞いてみたいと思ふようになった。

私自身、外国である日本の教壇に立つようになり毎日の授業や生活の中で非常に多くの事を学ぶことができた。そして言葉や国籍を越えた人と人との暖かい心のふれあいがあり、新鮮な感動の連続だ。韓国の教壇に立った先生達もきっと色々な経験をされたのだろう。どんな事を学び、どんな事に感動したのだろうか。お目にかかれたら、これも聞きたいあれも聞きたいと、私の夢はどんどんふくらんだ。

しかし残念な事に夢は夢で終わってしまった。というのは教育委員会が尋ねたところ「岐阜県には該当者がいないだろう、もしいたとしてもすでに亡くなられただろう。」と言われた。私は時間の感覚をすっかり無くしてしまっていたようだ。あれから80年ぐらいは経っているのだ。

でも、幸い、その時代教師ではないが韓国で生まれ第二次世界大戦が終わったとき日本に帰国した人達に会う事ができた。その人達のはとんどが60才代のおじさん達で、彼らの両親が戦前仕事のために韓国に渡り、そこで子供時代、青年時代を過ごした人達だった。彼らはもう韓国語をすっかり忘れてしまっているが、幼い頃の友達、町の人達、町の様子、戦争中の不安や思い出を話してくれた。

たとえ政治や戦争が人々の生活を変え、引き裂いたとしても幼い日の思い出や、ふるさとを思う気持ちには変えられないのである。私がかいたかった先生たちもきっと同じような思いをしていると思う。またこのような経験を持つ人達を日本の中にたくさんいるのだと思う。

私は来月からある高校へ行き、韓国語の授業を担当することになった。その高校では韓国修学旅行を計画しているため事前に韓国語を勉強することにしたので、韓国を旅行先に選んだ理由は、日本から一番近い外国で、経済的に成長している韓国を生徒たちに見せたいからだそうだ。私は日本に来て、太平洋を中心とする世界の

未来予想図は韓国と日本をはじめとするアジア諸国なしには語れない事を認識した。韓国と日本は戦争が生んだ不名誉な誤解を解き、お互いに理解と責任を持ち協力し合わなければいけないと思う。今こそ正しい知識を持った時代が要求する「国際人」を育成しなければいけないと思う。

夏は郡上八幡は長良川で鮎かけを楽しむ人達や、郡上踊りや町の散策を楽しむ観光客でも賑やかだ。いよいよ夏がやって来る。私もAETを始めて丁度一年になる。

日本社会では当たり前の日常生活文化も私には特別な感動や衝撃が多々あった。中学生達の学校生活の中で気づいた事をちょっと思い出してみよう。

生徒達の遊びの一つに「じゃんけん」がある。辞書には「片手ではさみ、石、紙を真似て勝負を決める遊び」と定義されている。その「じゃんけん」は日本人の日常生活の深いところまで浸透しているようだ。生徒たちはグループ活動で順序を決めるときや給食で何か一つ余ったりと誰か食べるかを「じゃんけん」で決める。でもそれだけではなく、慎重に考えて決めなければならない役割とか責任でも「じゃんけん」で決めたりのををよく見かける。誰か余った給食をもらうかを決めるのも、もっと大切な問題を決めるのもどうして同じじゃんけんか決めるのだから。これは単にじゃんけんが日本人に非常に馴染んでいるからだけではないと思う。生徒達は生徒会活動や学級活動で行事や役割を仲間同士決める時に必要な論理的判断や、自分の意見をはっきり言う力があまりないからだとする。難問を解決するために手を出してじゃんけんをするよりは、相手の意見や話をよく聞き、自分の考えを積極的に発言し、頭

でほしいと思う。
もう一つは、聞き手の目を見ず下を向きながら話す生徒がたくさんいることだ。始めはどういうことか分からず、私の事が気に入らないからだと思っていたけど、今はそれも日本の一つの文化なのだろうと思うようになった。でも私は生徒達の目を見ながら話したい。「恥ずかしい」、「自分の考えに自身が無い」、「間違っていたらどうしよう」、「こんな事言ったら何て思われるだろう」、そんな事を考えているのかもしれない。皆、勇気を持って、「Look at my eyes」。私は時々坂本九さんのスキヤキの歌を唄う。「上を向いて勉強しようよ。」

日本を過ごすAETとしての夏は今年が最後である。アメリカのニューヨークに帰ると郡上八幡が懐かしくなるだろう。生徒達や学校も懐かしくなるだろう。今年のお盆はぜひ徹夜で郡上踊りを踊ろう。

私のAETの日記はここで終わらせるが、生徒達との生活は毎日続いている。そしてAETの任期が終了しアメリカに帰っても、日本、韓国を含めた私の人生は続く。続くと言ふより始まるのだ。私は私を離れていく「虎」を見ている。私の心を飛び出して「虎」はどこへ行くのだろう。もう二度と「虎」に悲しい思いをさせたくない。日本での経験を通して再確認した多様な国際教育の重要性は私を韓国、日本、アメリカのかけ橋として働かせる力となるだろう。日本と韓国を含めたアジア諸国は戦前戦後の暗い歴史に早くピリオドを打つため、互いに協力し問題を解決すべきだと思う。これは私達戦争を知らない若者の責任だ。私達も勇気と情熱をもって取り組もう。生まれ変わった虎のように。

虎よ、おめでどう！
(さよなら)

と確信しております。
今後とも当協会へのご理解と一人でも多くのご参加をお待ちいたしています。

国際交流この一年

当協会では国際感覚と幅広い視野や発想を郡上全体に広げていくために今年には特に草の根的な活動を中心に行ってきました。
主な活動としては、AETの協力を得て、世界の人々のさまざまな価値観や文化を理解するため公民館や自治会、婦人会やPTAを通じて1日ホームステイ、懇談会、講演等を開催し、多くの方々の参加を得ることができました。
また、簡単な日常会話程度の英会話を修得してもらうため、八幡英会話サークルの協力を得て教室を開き好評を得ました。更には、

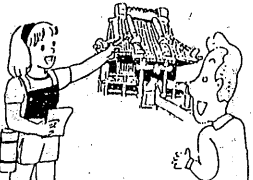
あなたの優しさを世界の人に!

国際交流ボランティアに登録をしませんか

郡上八幡国際友好協会では、ホームステイ・ホームビジットの受け入れや郷土文化の紹介、交流事業推進、語学協力活動のボランティア、及び国際友好協会員を募集しています。

ホームステイ
外国の方の短期宿泊

郷土の紹介
郷土の観光・産業等の紹介



ホームビジット
外国の方の家庭訪問

日本文化の紹介
お茶・お花・日本料理の指導

語学協力活動
通訳・翻訳・日本語講師等

事業推進
国際交流事業の企画・立案等

登録を希望される方は、八幡町島谷228番地 八幡町役場企画課内郡上八幡国際友好協会事務局までご連絡下さい。尚、ホームステイ以外のボランティアの登録用紙、及び協会員申し込み用紙は協会事務局(企画課)にあります。

お問い合わせ先 TEL 05756-7-1122 FAX 05756-7-1711



あたたかい家庭を世界の人に

ホスト家庭募集



♥あなたも素晴らしい友情を結んでみませんか♥

今年も6月15日から8月5日までの日程で北米地域の大学生が郡上にやってきます。学生の皆さんは郡内の各家庭でホームステイをしながら、日本語講座を受講し、また茶道や書道等の日本の文化に触れながら地域の人たちと交流を持ちます。
ホスト家庭に興味のある方、もしくは是非やってみたいという方はご連絡下さい。